きらきら・レター

Kirakira-Letter

令和８年１月
第 97 号

公益社団法人地域医療振興協会 練馬光が丘病院 広報紙

もくじ

新年のご挨拶 ……2～4
お知らせ ……4

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は、当院の看護活動に対し多くのご理解と温かいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

看護部長
大城（おおしろ） 優子（ゆうこ）

2026 年は「丙午（ひのえうま）」の年にあたります。古くより、丙火の力強さと、午がもつ俊敏さや温厚さが重なり、“新しい道を切り開く力”を象徴するといわれています。地域の皆様とともに、確かな歩みを重ねながら、未来へ進む一年にできればと願っております。

昨年、当院では災害拠点病院としての役割を改めて見つめ直し、災害看護に関する教育や訓練に注力いたしました。有事の際にも地域の安心を支えられるよう、看護職員が自ら学び、備えることで、チームとしての力を強化してまいりました。

また、都区外や僻地の関連施設への看護師派遣を実施し、地域医療の現場で多くの経験を積む機会をいただきました。現地で得た学びは、日々の看護へと生かされ、患者さまに寄り添う力となっています。患者さまを中心とした看護をさらに深め、私たちの視野を広げる貴重な財産となっています。

さらに、特定技能外国人の看護補助者を新たに迎え、多様な文化が共に生きる職場づくりを進めてまいりました。文化や言葉が異なっても、「目の前の患者さまを大切に思う気持ち」は同じです。その姿勢が、あたたかい看護の輪を広げてくれています。

本年も、「その人らしさに寄り添う看護」を大切に、より良い看護をご提供できるよう努めてまいります。患者さま・ご家族の思いに耳を傾け、安心して治療に向き合える環境づくりに、看護部一同、心を込めて取り組んでまいります。

皆様のご健勝とご多幸をお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。

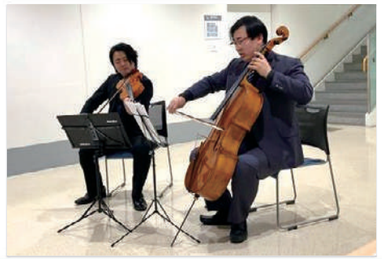
お知らせ

きらきらコンサート開催について

今年も「きらきらコンサート」を開催し、多くの患者さまや地域の方々にご参加いただきました。今回の演奏は、若手実力派のヴィオラ奏者・中峰優太様とチェロ奏者・谷藤雅規様のお二人によるデュオ。奇想曲「パガニーニへのオマージュ」やプレリュードといったクラシックに加え、「糸」「上を向いて歩こう」など世代を問わず親しまれる楽曲も演奏され、会場は温かい拍手に包まれました。

約 90 名の方が集まり、１階廊下は大変賑やかな雰囲気となりました。参加された患者さまからは「気持ちが前向きになった」「生演奏を聴けて嬉しい」などの声を多数いただき、演奏者のお二人も「楽しく演奏できました」と笑顔を見せてくださいました。

今後も、音楽を通して地域と病院をつなぐ取り組みを続けてまいります。



練馬光が丘病院は「公益社団法人地域医療振興協会」の運営施設です。地域医療振興協会は、地域医療を取り巻くさまざまな問題を解決し、へき地を中心とした地域保健医療の調査研究および地域医学知識の啓発と普及を行うことを目的に 1987 年５月に設立され、2009 年 12 月 1 日より公益社団法人として新たにスタートしました。地域医療に対する意欲と実績を持つ医師を中心に、つねに地域保健医療の確保と質の向上など住民福祉の増進を図り、地域間での医療の不均衡の解消、地域の振興を推進しています。

発行元：練馬光が丘病院

〒179-0072 東京都練馬区光が丘 2-5-1
TEL：03-3979-3611(代)
https://hikarigaoka-jadecom.jp/

令和8年新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。

管理者
永井（ながい）　秀雄（ひでお）

新しい年を迎えるにあたり、地域の皆さま、患者・ご家族の皆様、また多くの関係者の皆様のご多幸を心からお祈り申し上げます。
昨年は皆様からの温かいご支援をいただき、診療体制を整備することができました。改めて厚く御礼申し上げます。

新たに血液難病疾患センター、気胸センター、甲状腺外科、小児外科を立ち上げ、診療領域を広げました。救急部門・集中治療部門（ICU）も充実させ、ピックアアップ搬送（病院の救急車で医療機関に出向き当院に搬送）、ICUホットラインの設置など地域のニーズに応える取り組みを開始しました。
小児・周産期医療も地域の期待に応えるよう職員が全力を尽くしてくれました。
がん診療について言えば、内視鏡、手術、薬物、放射線、ゲノム、緩和ケアを組み合わせた個別化診療にも対応できるようになりました。前立腺がん・腎臓がんや大腸がん・胃がんに対するロボット手術も順調に症例数を伸ばしています。がん相談支援室ではメールがん相談も行うようになりました。
当院は急性期の総合的な診療から専門的な診療まで幅広く対応できる体制を整えています。回復期リハビリテーション病棟も順調に稼働し、急性期から回復期への移行が円滑に進められるようになりました。

こうしたことも相まって徐々に安定した経営になりつつあります。医療機関にとって安定した経営は、良質な医療を継続的に提供するための基盤となります。さらに、業務の効率化と診療への対応も求められています。これらの現実に向き合いながら、次に進むべく取り組みを続けてまいります。
医療の本質は人の生命と健康を守ることです。それは医療者の志に基づいて提供されるべきものだと考えます。とくに大切にしているのは、単に医療技術の提供に留まらず、人に寄り添う医療を実現することです。一人ひとりの状況や心情を理解し、その人にとって最善と思われる医療を提供することが、私たちの使命です。

そのためには、院内では多職種が連携して最適な医療を提供することが重要となります。また、地域との連携もこれまで以上に強化していかなければなりません。病院が担う役割は単に診療を提供するだけでなく、地域住民の方々にとって「安心の拠り所」であるべきだと考えます。高齢化や医療需要の多様化が進む中で、地域の医療機関、介護福祉施設、医師会、行政などと協力し、切れ目のない医療福祉の提供を実現していく必要があります。ひとつの病院の努力だけでなく、地域全体の力を結集することが欠かせません。地域とともに成長する病院であるために、引き続き積極的な連携を進めてまいります。

一方では、職員の働き方改革と待遇改善にも目を向けなければならないと思っております。医療は人が行うものです。職員が心身ともに健康であり、業務に見合う待遇が得られることが重要です。これによって質の高い医療が提供できると考えます。

これまで支えていただいた皆様への感謝の気持ちを胸に、私たちはさらなる高みを目指してまいります。患者の皆様にとって信頼できる病院であること、地域の住民にとって誇りとなる病院であること、そして職員にとって働きがいのある病院であることを目指し、努力を続けてまいります。

本年も当院への変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

「ONE TEAM で患者様に笑顔のトライを」
新年あけましておめでとうございます。

副管理者 兼 病院長
吉田（よしだ）　卓義（たかよし）

平素より、練馬区をはじめ地域の医療機関の皆様、ならびに地域住民の皆様には、当院の医療活動に対し格別のご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、皆様におかれましては、昨年一年を大きな病気やけがなくお過ごしになれましたでしょうか。医療機関を受診せずに済むことが何より大切である一方、いざという時に安心して頼っていただける存在であることが、私ども病院の使命であると考えております。当院では本年も
「ONE TEAM で患者様に笑顔のトライを」
をスローガンに掲げ、安心して受診いただける医療体制の整備を進めてまいります。

2022年10月の新病院移転から4年目を迎え、当院は新たな医療体制の構築を着実に進めてまいりました。拡充した救急部門では救急車の受け入れ台数が大幅に増加し、年間約 9,000 台に迫っております。現在では、都内でも当院より西側地域からの救急要請も増加しております。

また、当院独自の救急車を活用し、周辺医療機関へ重症患者さまをお迎えに行く取り組みや、当院での対応が困難な場合には、適切な医療機関へ迅速に搬送する体制も整備いたしました。より安全で円滑な医療提供を目指し、地域全体で患者様を支える仕組みづくりを進めております。

がん治療においては、ロボット支援下手術、最先端の放射線治療、緩和医療の充実に加え、食道外科専門医の招聘や脊椎外科手術など、高度かつ専門性の高い医療にも積極的に取り組んでおります。さらに昨年 4 月には、血液の希少疾患にも対応する「血液難病疾患センター」を開設し、より幅広い患者さまのニーズにお応えできる体制を整えました。

一方で、医療安全への社会的要請の高まり、物価高騰、働き方改革など、医療を取り巻く環境は年々厳しさを増しています。そのような状況下においても、当院は「地域医療の最後の砦」であることを強く自覚し、診療の質の向上と職員が誇りを持って働ける環境づくりの両立に努めてまいります。

本年も職種の垣根を越え、スタッフ一同が “ONE TEAM” となり、患者さま一人ひとりがそれぞれの目標（トライ）に向かって前向きに進んでいけるよう、全力で支援してまいります。ご自宅やご紹介元の医療機関へお戻りになられた際に、「光が丘病院に行って元気になった」「笑顔が増えた」と感じていただけることが、私たちにとって何よりの励みです。

本年も地域の皆様の健康と安心を支えるため、最新の医療技術と温かい医療の提供に尽力してまいります。
引き続き、変わらぬご支援とご指導を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。